

| | |
|-------|---------------------------------|
| 研修機関 | 医療法人社団仁智会 介護老人保健施設 春日町ケアセンター |
| 研修期間 | 平成16年10月28日～11月26日 |
| 所属・氏名 | 石川県立金沢商業高等学校 河合秀樹 |

I 研修目的

- ・介護老人保健施設での業務を体験することで、高齢化社会の現実の一端を知る。
- ・入所者とのふれあいや介護を通して、人との関わり方を見つめ直し、今後の教育活動への新たな手がかりを見いだす。
- ・現場スタッフとの仕事を通して、仕事の厳しさやチームワークの大切さを知る。

II 研修内容

1 1日の研修の流れ

- | | | |
|-------|---------------|---------------|
| 8:30 | スタッフ打ち合わせ | |
| 9:00 | トイレ（排泄介助） | |
| 10:00 | 飲水（ジュース・お菓子） | （火曜・金曜） |
| | リハビリ | 午前：特殊入浴（浴場移動） |
| 11:30 | 食事準備・食事介助 | 午後：一般入浴 |
| 12:30 | 休憩 | |
| 13:15 | コミュニケーション | |
| | トイレ（排泄介助） | |
| 14:00 | レクリエーション | |
| | リハビリ | |
| 15:00 | おやつ（ジュース・お菓子） | |
| | コミュニケーション | |
| 16:45 | 食事準備 | |
| 17:15 | 研修終了 | |

2 食事・入浴介助など

- ア 湯茶の用意、食堂への誘導、湯茶・おしぼり配り、配膳、食事介助、入れ歯洗浄
 イ 入浴誘導、ドライヤーでの整髪、飲水（ジュースなど）
 ウ 爪切り、ひげ剃り
 エ おやつ（おかし+ジュース）、飲水介助
 オ リハビリセンターへの誘導

3 入所者とのふれあい

- ア 声かけ、コミュニケーション
 イ トイレ誘導・介助
 ウ レクリエーション
- ・ 風船バレー
 - ・ ボウリング
 - ・ 輪投げ
 - ・ カラオケ
 - ・ 民謡
 - ・ 音楽（童謡・歌謡曲）
 - ・ 生け花、書道、茶会
 - ・ 短歌・俳句会

4 その他

- ア ネームプレート作製
- イ 施設スペースの飾り付け

Ⅲ 研修成果

私が1ヶ月間研修したのは、軽度痴呆棟のフロアで、34人の入所者があった。

入所者の痴呆の程度は様々で、さらに高血圧や心臓病・糖尿病を患っている方も多かった。そして、転倒や発熱・下痢・便秘・皮膚の掻き傷など毎日毎日が入所者から目を離せない状況であった。そのため毎朝の引き継ぎでは、前日の入所者の状況を一人一人詳細に連絡する。全員が緊張した雰囲気の中で、本当に一生懸命入所者のことを考えていることにとっても感動した。そしてスタッフの方が一人一人の入所者に対して、とても明るく、優しく、時には厳しく接しているのが印象的であった。

毎日をケアセンターで過ごす入所者に対しては、日ごとに様々なレクリエーションが行われ、企画・運営の工夫など入所者を飽きさせないための配慮が至る所に見られた。

身体機能回復のためのリハビリテーションも充実しており、入所者本意の施設運営であることを実感した。

ここでの主役は入所者であり、スタッフはそれを支える存在である。学校においては、主役はもちろん生徒たちであり、教員は生徒を支える存在に徹しなければならないと思った。

Ⅳ 今後の課題

今回の研修で一番多く時間を費やしたのは、入所者とのコミュニケーションである。

車椅子に座った方の目線に降りて、真剣に話を聞くことが、相手と意志を通わせる上で一番大切なことだと思った。相手が何をしてほしいのか、何を伝えたいのか分かるし、こちらの意志を伝えることもできる。

学校現場においても、一方的に生徒を見るのではなく、生徒の目線に立って、その気持ちを十分汲み取った上で最善の努力をし、生徒の個性・適性を活かしてやれるような指導力を教員として身につけていきたいと思った。

今回の研修においては、研修生という立場もあり、当然スタッフの方と同様の仕事はできず、皆さんがお忙しいなか、成す術もなく、何度かもどかしい思いもした。そんな私に対して、貴重な時間を割いてご指導いただいた春日町ケアセンターの職員の方々、楽しい時間とさせていただいた入所者の皆さんに深く感謝申し上げます。